

平成15年度 長期研修生

研究報告書

平成 16 年 3 月 山形県教育センター



は し が き

日本の社会はいま、グローバル化や高度情報化の進展、科学技術の進歩、少子高齢化社会の進行、家族・地域の変容などにより急激に変化しています。このような、学校を取り巻く環境が大きく変貌する中、豊かな心と健やかな体を養い、自己実現を目指す自立した人間の育成を目標として、「画一と受身から自立と創造へ」を基本理念とする教育改革が進められております。本県では、独自の改革の大きな柱として全国に先駆けて導入した「教育山形『さんさん』プラン」において、人と人との温かいかわり合いを土台とし、「学ぶことが楽しい」と実感できる授業を目指した授業改善が進められ、その成果が表れてきております。

いま教師には、教職に必要な専門性・実践的指導力の向上、人間としての幅広い知見と教職に対する使命感、生徒への教育的情熱がなお一層求められています。

山形県教育委員会では、教員の資質能力の向上を図るため長期研修制度を実施しております。当教育センターにおいては、昭和50年から昨年度までの28年間で487名が研修し、その研究成果を児童生徒に還元してまいりました。本年度も、小学校から1名（3か月）、高等学校から1名（6か月）の計2名の研修生の方が、それぞれ教育相談について、熱心にしかも意欲的に研修に取り組まれ、指導力の向上に努めました。

この研究報告書は、研修生の弛みない研鑽による成果をまとめたものです。それぞれの研究は、研修生自身の今後の指導に役立つことは勿論、本県の学校教育の充実発展に寄与するものと確信しております。

終わりに、長期研修生の研修に温かいご配慮と懇切丁寧なご指導をくださいました関係各位に対し、心からお礼申し上げます。

平成16年3月

山形県教育センター

所長 野 口 一 雄

目 次

(前期研修・6か月)

- 1 教育相談の考えや技法を取り入れた進路指導の研究
～構成的グループエンカウンターによるキャリア・アンカー発見～
県立村山農業高等学校 教諭 山口 恵子

(後期研修・3か月)

- 2 教育相談の技法を生かして「人と関わる力」を育てる研究
山辺町立山辺小学校 教諭 高橋 宏一

平成15年度長期研修生研究報告書

所 属 校 県立村山農業高等学校
指 導 者 西 村 仁 美
研修生氏名 山 口 恵 子

目 次

1. 研究主題	P. 1
2. 主題設定の理由	P. 1
3. 研究の仮説	P. 2
4. 研究内容与方法	P. 2
5. 研究計画	P. 3
6. 研究のまとめ	P. 4
(1) 文献研究	P. 4
ア. 進路指導とは何か	
イ. 進路指導の6分野	
ウ. 構成的グループエンカウンターとは何か	
(2) 実技研修	P. 7
(3) 調査研究	P. 8
ア. 県内公立高校5校進路指導主事への聞き取り調査のまとめ	
イ. 県内公立高校5校2年生へのアンケート調査結果による進路意識の分析と考察	
ウ. 所属学年生徒の実態と所属学年教師の予想する実態の比較と考察	
(4) 実践研究 (研究授業)	P. 16
ア. 授業者としての反省から	
イ. 学習カードに記載されたキャリア・アンカーの分析から	
ウ. 研究授業後のアンケートの結果と考察	
7. 今後の課題	P. 20
8. 主な参考文献一覧	P. 21
9. 終わりに	P. 21

1. 研究主題

教育相談の考えや技法を取り入れた進路指導の研究

～構成的グループエンカウンターによるキャリア・アンカー発見～

2. 主題設定の理由

平成 12 年に村山農業高等学校の生徒保健委員会が行った調査によれば、生徒のストレスの原因として「進路」「勉強」等が上位に挙げられた。特に進路に関しては、近い将来決断をせまられる重大な問題として、不安を感じている様子が伺える。

しかし進路の悩みから生じるストレスは、支援や指導の仕方によっては生徒の生活全般を向上させていく強い動機に変わるものでもある。また、進路の悩みを解決させることで、他のストレスである「勉強」等に解決の糸口が見つかる可能性も大いにあると考えられる。そこで本校生がよりよく生きるための進路指導について様々な面から実践、研究したいと考えた。

高等学校における進路指導の最終的な指導目的は進路の意志決定であろうが、各自の進路選択に大きな影響を与える要因として、シェイン (Schein, E.H. 1975) はキャリア・アンカーを挙げている。キャリアは「進路」、アンカーは「錨」であり、シェインはキャリア・アンカーを「個人が選択を迫られたとき、その人がもつとも放棄したくない欲求、価値観、能力などのことで、その人の自己像の中心をしめすもの」と定義している。

所属校の生徒が抱えている不安は、眼前の進路選択についての適応性や実現性への自信のなさによるものと思われるが、自分のキャリア・アンカーは何であるかを考えさせる進路学習を積み上げていけば、自分の生き方やあり方を見つめ直し、卒業後の職業選択において自己実現を図ることができるのではないかと思われる。よって、キャリア・アンカーについて考えるための進路指導について研究したいと考えた。

そして、そのような支援には、教育相談的な考えや技法を活かしていく必要を強く感じる。なぜなら自分のキャリア・アンカーについて考えるためには、学習活動や相談活動を行う中で自分の内面を深く見つめながら、他者との関わりの中で自分を成長させ問題解決していく力を身につけさせることが不可欠だからである。

教育相談の考えを取り入れた活動や指導法は数多く研究されているが、先行研究では他者とのかかわりを通して自分の内面に問う力を育成する有効な手段として、構成的グループエンカウンター (以下 SGE) がしばしば取り上げられ成果が検証されている。よって所属学年生徒にはどのような形で SGE を活かせばキャリア・アンカーの発見につながる効果があるのかについて研究し、その有効性を検証し、研修後の実践に生かしていきたいと考え、本主題を設定した。

3. 研究の仮説

構成的グループエンカウンターの考えや技法を生かした進路指導を行えば、
生徒は生き方あり方を見つめなおし、
自分のキャリア・アンカーを見つけようとするだろう。

4. 研究内容与方法

1. 文献研究

- ・進路指導の理論や実践方法についての理解
- ・構成的グループエンカウンター (SGE) の理論や実践方法についての理解
- ・サイコエジュケーション、ソーシャルスキルトレーニング、カウンセリング等、教育相談の理論や実践方法についての理解

2. 実技研修 (所内講座・所外研修会への参加等)

- ・SGE、教育相談実技等の演習
- ・各分野の専門的な研修会等への参加

3. 調査研究

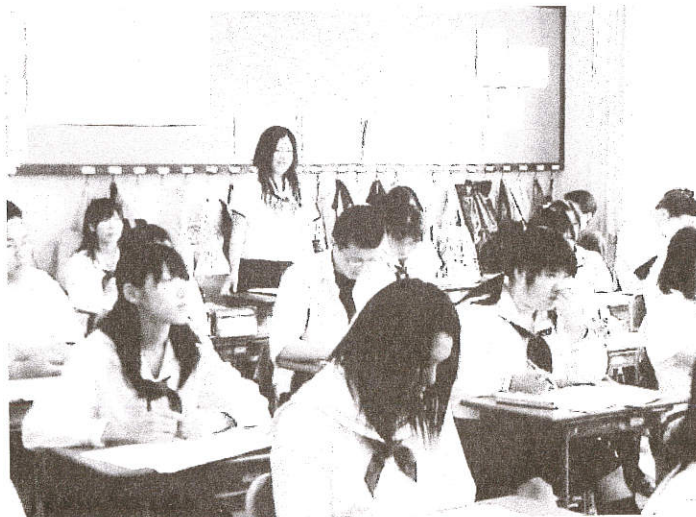
- ・所属校と他校の進路指導に関する資料の収集、分析
- ・所属校と他校への聞き取り調査およびアンケート実施

4. 実践研究

- ・学習指導案の原案作成、所属校での実践や試行、考察、修正
- ・進路指導年間計画に基づいた活動アイデア集作成

5. 研究計画

	研修予定	研究内容
5 月	(計画立案) ↓ 26 計画書提出	文献研究 (SGE、教育相談等の理論の理解) ↓ 実技研修 (所内・外での研修)
6 月	2 所長ヒアリング (中間報告書作成) ↓	調査研究 (所属校、他校の資料収集、 アンケート調査、聞き取り調査)
7 月	10・11 授業実践 15 中間報告書提出 25 中間報告会	実践研究 ①教育相談の 考えや技法を生かした授業や 活動案集の原案作成 ②授業の実践
8 月		③結果の考察、分析、修正
9 月		④活動案集のまとめ
10 月	15 研究発表会 ↓ (報告書等作成) 30 修了式	活動案集完成



6. 研究のまとめ

(1) 文献研究

ア. 進路指導とは何か

進路指導は次のように捉えられている。

文 部 科 学 省	「進路指導は『生徒の個人情報、進路情報、啓発的体験および相談を通して、生徒が自ら将来の進路の選択、計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように教師が組織的・継続的に指導・援助する過程である。』」	文部省「学校における教育相談の考え方・進め方 中学校・高等学校編」1990
木 村 周	「学校進路指導の革新が強く求められている。偏差値によるいわゆるよい学校への進学指導一辺倒から『生き方の指導、すなわち生涯を通じたキャリア形成』のための援助と指導への転換である。」	木村 周「キャリア・カウンセリング」138頁 1998 (社会法人雇用問題研究会)
國 分 康 孝	「進路指導とは学校や職の斡旋ではない。これからの人生をどう歩むかという自問自答を援助する人生学のことである。」 「将来へ続く時間の流れのなかでいまを読みとることが大事だ」といいたいのである。これを実践するのが進路指導である。」	國分康孝編集代表「進路指導と育てるカウンセリング」8-9頁 1988 (図書文化社)
吉 田 辰 夫	「これからの進路指導の視点は、①目的意識や生きがいを持つて生活できる青少年の育成、②進路に対する自己効力感の育成、③進路へのビジョンを高める進路情報資料の収集と活用、④体験学習の奨励、⑤将来の生活設計、⑥職業・産業の世界の理解、⑦主体的な進路選択力の育成、⑧社会的職業的自己実現を目指す指導、などをあげることができるとともに積極的な取り組みが必要である。」	吉田 辰夫「21世紀の進路指導事典」3頁 2001 (ブレーン出版)

以上を踏まえて、本研究では進路指導を次のように捉えた。

「進路指導とは生徒一人一人の生き方あり方に関わる指導である。最終的な指導目的は進路の意志決定であるが、決定させるにあたり、自己理解の促進や、自分のアイデンティティについて自分自身に問いただす場面を持たせることが不可欠である。また、進路を選択させるうえで、個人の興味関心は尊重されなければならない。これからの進路指導では、卒業後の本人の成長と適応を考慮した進路計画を立てさせることと、実社会で生き抜くためのスキルの指導が必要である。」

学校における進路指導には、下の6分野がしばしば引用されている。

①自己理解	進路、職業等に関して「自分自身」を理解できるよう援助すること
②職業理解	進路、職業、キャリアルートの種類と内容を理解するよう援助すること。
③啓発的体験	選択や意志決定の前に、やらせてみること。
④カウンセリング	必要なカウンセリングを行い、選択や意志決定を行うことを援助すること。
⑤方策の施行	意志決定したことを実行するよう援助すること。意志決定もここに含まれる。
⑥職場適応	それまでのガイダンスとカウンセリングを評価し、適応の援助を行うこと。「卒業生追指導」などがこれにあたる。

しかし研究者によって6分野を表す表現が微妙に異なる場合もあるし、学校によっては実態に合わせて6分野を独自に組み替えて分類している。本研究を始めるにあたって、所属学年の生徒の実態に即した適切な分類について、次のように考えてみた。

②「方策の施行」について現段階で指導すべき焦点は、「意志決定後の援助」ではなく「意志決定」そのものと考えられる。よってこの項目の名称を「意志決定」とする。

④意志決定以前の「自己理解」「職業理解」「啓発的体験」「進路相談」の段階ごとに、自分が進みたい進路について段階的に具体的な見通しを生徒に持たせていく必要があると考える。この具体的な見通しを持たせる活動や支援を総合して「進路計画」とする。

自己理解	職業理解	啓発的体験	進路相談	進路計画	意志決定
進路、職業等に関して「自分自身」を理解できるよう援助すること	進路、職業、キャリアルートの種類と内容を理解するよう援助すること。情報収集もここに含まれる。	選択や意志決定の前に、やらせてみること。本校では2年次の「産業現場実習」等がこれにあたる。	必要なカウンセリングを行い、選択や意志決定を行うことを援助すること。	自分が進みたい進路について、段階的で具体的な見通しを持てるよう援助すること。	「自己理解」「職業理解」「啓発的経験」「進路相談」「進路計画」の学習を通して意志を決定すること。

(1) 定義

「ホンネとホンネの交流により、ふれあいの人間関係づくりをして、自己発見を深めるグループ体験のこと。そのためにリーダーの指示によるエクササイズを中心に進めるのが構成的グループエンカウンターである。」(片野智治編「エンカウンターで進路指導が変わる」 2001 [図書文化社]より)

- ・エクササイズとシェアリングによって、集団内にリレーション（心と心のふれあい）をつくる。
- ・個々が自己発見をする。

(3) 具体例 【私は面接官】(片野智治編集代表「エンカウンターで進路指導が変わる」2001〔図書文化社〕より)

場面 数珠の貫通(●)と生地の反転・行進(△)

●記入してきもらった「私のPRカード」を出してください。

●今日日曜日は休校です。これから読書館を歩くようにしてきますが、ぜひとも待ってほしいところがあります。それは「自分から歩かずかきやうに促る技術」です。

●3人に話をします。1人は生徒役、その2人は生徒役です。生徒役の2人は、マナーを受け取り方を見習える、人を助ける人役割を分担します。生徒役は廊下で待ち、面談への入会から通過までずっと待ち続けてください。☆役柄と服装を定めます。

●では、まず生徒役の方から話します。あふんとは何（読んでいい）が「面接官役」です。みなさんは①質問に答えられないし、②質問されたこと、③答えていなかっただけで終わったこと、こうとうとの内容の方法に注目して見ていただきます。

——教師がデモンストラーションを行う。

☆やう、あんまりとなくして、**☆**。自由なうでが生え、
 ☆先はききうて、「私は」をいへるに答へてしまひ、
 いへんていふでがしとしかた、一語をきける。
 ☆画面の画面は1回とてしまひ、5分たつと、画面が2の
 人は描いて(フレイムカード)に記入してくだい。生体だ
 った人は、張り取り用紙に記入する。
 ☆ては、画面をきめよう。フレイムカードをジエスチャーから始
 めて、
 →A・B・C
 ☆生体はアを画面に入し、それぞの場所に着席する。
 ☆5分たつと、1回の画面を終てくだい。
 ☆生体はアを2に退出、すでにきく。
 ☆画面が再びフレイムカードへ記入してくだい。時間は2分
 ☆や。それでは、役を交代します。2回の生体は順次下へ出
 てくだい。
 ☆の、以上、順次繰り返す。

●⑦は、今日の学習の振り返りをします。アドバイスカードを本人に渡し、ご確認ください。それぞれの人のよき点、改善点について
会話をしながら、5分くらいずつ話し合ってください。

●⑧をします。国語のスキルアップの3冊を渡す。①「佐々木
ひさ子」を読み終えた中で語ること。②「私を国語にしたい方
い」を何回か何回か練習すること。③「国語」についてまとめる
ものがないこと、この3冊をこれからの練習で活用してついで
てほしいと願っています。

●国語のワークシートを皆さんに渡しますので、質問に答えてくた
さい。国語のワークシートがもらいます。思ったことなど自由に相談に
乗りますから、安心してどんどん書き進めてくださいな。みんな
の国語を習得します。

●事前にビデオを見てマナーを確認し、「私のPRカード」記入を宿題としておく。

●ねらいとキーワードを把握する。

●教員のデモの仕方

- ・ドアをノックして開け閉めするジェスチャー
- ・自己紹介
- ・質問には「私」を主語にして答える

●「さきも重要なマナーであること」を注意する。

- 進行がとどこおっているグループには介入して表現の仕方をしてやる。
- 終了30秒前に予告しておく。

●1人につき5分程度時間をとり、十分に話し合わせる。

- シェアリングの結果を学級通信で紹介する。
- 1度だけでなく、生徒が技法を身につけるまで繰り返し行うとよい

1000

佐藤健吉 さとうけんきち

■ねらい

●**キーワード** (板書事項)
「私」を主語にした言い方、横断、ロールプレイ

[illegible]

●著者
●私のドクトラード
●今時
●アパライザカド 振子、均角形、
●図表、シート (家庭に用
●内容書
●著者
●ビザを申請し、調査のマー
●学生、ビザがなげ、
●○本時
●三人以上、生徒一丸
●官立、私立、その調査を
●(二人)同志
●調査、調査、
●生徒、ドクトラード
●口頭
●代、調査、
●一人一人、
●アレシ、
●調査、
●小、

(2) 実技研修

進路指導や教育相談について専門的な知識を得たり実践的なスキルを身につけたりするため、下記の研修に参加した。

【センター主催の研修】

- ①5月13日(火) 小・中初任者研修「構成的グループエンカウンター講座」「教育相談の進め方」
- ②7月8日(火) 高等学校教職5年経験者研修オープンセミナー「高校生と高校教育の変容」
- ③7月28日(月) オープンセミナー「総合的な学習の時間」
- ④7月30日(水) ミンミンなかまづくりセミナー体験コース(寒河江市村山総合支庁西庁舎)
- ⑤8月1日(金) 小・中初任者研修「社会学からみた青少年問題」(天童市民文化会館)
- ⑥8月7(木)・8日(金) ミンミンなかまづくりセミナー リーダー養成コース
- ⑦9月10日(水) オープンセミナー「不登校についての理解と援助」
- ⑧10月7日(火) オープンセミナー「心を育てる道徳教育」

【所外の研修】

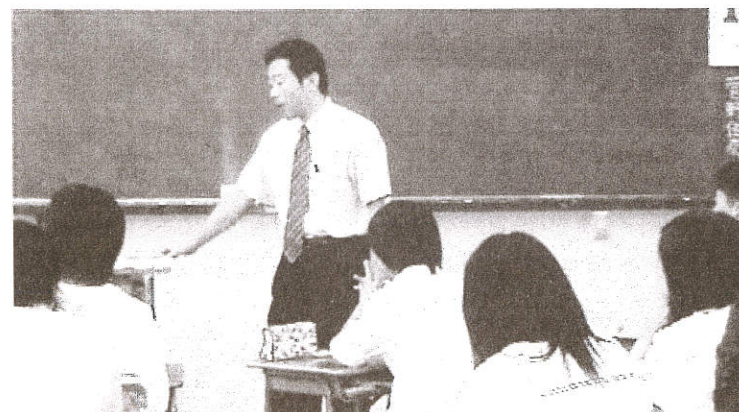
- ①5月24日(土) 不登校児童・生徒を持つ親の集い(山形市総合学習センター)
- ②6月7(土)・8日(日) SGE進路指導ワークショップ(東京・ウェルサンピア多摩)
 - ・レクチャー(講師 國分久子氏)
 - ・エクササイズ①「KJ法によるカード式職業興味探索」
 - ②「PASカードによる面接指導」(ロールプレイ)
 - ③「それってどんな自分？」
 - ④「高校入学後の迷い」(ロールプレイ)
 - ⑤「一人暮らしを考えよう」
 - ⑥「迷える子羊の宝探し」
 - ⑦「エニアグラム」
- ③8月11(日)・12日(火) 第14回開善塾教育相談実技研修会(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)
 - ・河合伊六氏(広島大学名誉教授)講演「不登校一再登校への支援」
 - ・布村幸彦氏(文部科学省)講演「教育改革の推進」
 - ・花輪敏男氏(国立特殊教育総合研究所)「ADHDの理解」
 - ・町沢静夫氏(精神科医)「今後の教育行政について」
 - ・丸山一座「即興劇による『虐待』」
 - ・選択演習「不登校への行動論的技法」「ロールプレイ」

(3) 調査研究

所属学年生徒の進路意識を他校との比較を通してとらえるために、県内公立高校5校に協力をいただき、進路指導主事への聞き取り調査と2学年生徒へのアンケート調査を行った。

対象：下記県内公立高校5校進路指導主事5名 および各校2年生 計約800人

県立村山農業高等学校	農業科学科	39名
	生物工学科	36名
	食品経済科	37名
	環境科学科	30名
県立置賜農業高等学校	農業科学科	約40名
	農業工学科	約40名
	生活情報科	約40名
	生活科学科	約40名
県立東根工業高等学校	機械システム科	約40名
	自動車工学科	約40名
	デザイン工学科	約40名
	生活クリエイト科	約40名
県立天童高等学校	総合学科	約200名
県立霞城学園高等学校	定時性普通科2年次在籍者	約120名



[illegible]

【所感】同じ私立高校でも地域や学科の違い等によって通学時間帯の仕方に様々な特徴があることを改めて実感した。関を取り囲まを行った高校には本校以外に2つの職業高校があったので、比較する上で大変興味深く感じた。また、職業学園本校の西田先生から近所制立校の通学時間帯の改善法について大いに考えさせられた。なお、お代りにもあらうとどの先生にもぜひいいにお言えくだされたことには本誠心感謝し、生徒の通学に際くつかあつたために、教師も生徒とともに歩む姿勢をこのように大切にしていかなければならないと痛感させられた。

一 通学にたいしては先生方に、この場をお借りしてむより感謝申し上げます。

[illegible]

17 日本に在る日本人の数の増減を正確に調査してゐる。 20 57

18 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 20 57

19 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 8 82

20 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 23 71

21 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 10 37

22 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 28 75

23 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 23 82

24 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 37 66

25 他が自國の統計で調査したものを正確に引用してゐる。 12 67

実習科目	実施人数672人 (男子369人 女子303人)	質問の観点	村農 農業 木工 天童 霞城
1	私は、得意な運動を何とどこでも生かすに慣れている。	明確な運動計画を持っていない	
2	私は自分のための身体鍛錬を好んでいる。	運動について正しいや不安はない	
3	私は運動のことを考えるとき自分の方針にたがっている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
4	私は運動のことを考えるとき周囲より少し進んでいる。	進路の自己決定能力は高い	
5	私は運動について考えることが出来る。	運動について他の人と話しあう経験がある環境にある	
6	私は運動習慣のある学校生活について行っている。	運動について自己理解が深まっている	
7	私は運動習慣のある学校生活について行っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
8	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
9	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
10	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
11	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
12	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
13	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
14	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
15	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
16	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
17	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
18	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
19	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	
20	私は運動の選択は自分の意思で決まると思っている。	運動習慣を確立しているが、よとして	

11	私は朝鮮に詳しいと思うが、何れも正確な数字を知らない。	21	「たいてい」である。
12	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	22	「たいてい」である。
13	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	23	「たいてい」である。
14	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	24	「たいてい」である。
15	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	25	「たいてい」である。
16	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	26	「たいてい」である。
17	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	27	「たいてい」である。
18	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	28	「たいてい」である。
19	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	29	「たいてい」である。
20	私は朝鮮に詳しい。何れの人か、今も覚えておられるか。	30	「たいてい」である。

質問の順 号	質問の内容	はい		いいえ		結果の総数から 判定
		10	20	15	10	
1	私は健康、愉快な生活を送つて居るに違ひない。	10	20	15	15	結果の総数では健康でない。
2	私は自分の生活が満足なものである。	17	21	10	9	
3	私は自分のことをよくよく知つて居る。	18	22	8	14	生活についての不安がかなり多い。
4	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
5	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
6	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
7	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
8	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
9	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
10	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
11	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
12	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
13	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
14	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
15	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
16	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
17	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
18	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
19	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。
20	私は自分のことをよくよく知つて居る。	11	22	14	16	生活についての不安がかなり多い。

※有意性の検定には直接確立計算 (1×2) を用いた。

【結果】

- (1) 全体的な傾向として、高校2年生の1学期において、多数の生徒に次のことが当てはまると言える。
- ア. 進路問題を自分の生き方の問題として自覚している。
 - イ. 進路に関して他の人の考えを聞くことはためになると思っている。
 - ウ. 進路についての悩みや不安が多い。
 - エ. 進路情報の集め方が分からない等の理由から、進路情報が不十分である。
 - オ. 長所や性格の生かし方がよく分からない。
 - カ. 啓発的体験に乏しい。
- (2) 所属学年生徒と他校生の結果を比較した場合、所属学年生徒の進路意識には次のような特徴があると考えられる。
- ア. 項目1により、他校生よりも将来の見通しを持つことによって生活に張りを持つ生徒は少ない。
 - イ. 項目14により、他校生よりも自己理解に関する検査の結果を活用している可能性がある。
- (3) 自由記述欄に記入された表現の中で特に多かったのは次の項目である。

項目	例
自己理解に関すること	「自分の長所や適性が分からない」 「向いている仕事を知りたい」
将来の見通しに関すること	「まだ希望進路が決まっておらず不安だ」 「何がやりたいのかよく分からない」
情報収集に関すること	「進路情報をもっと提供してほしい」 「進路情報の集め方が分からない」

【まとめと考察】

- (1) 上記の自由記述から、進路の不安を解消していくためには、自己理解を促進させたり進路適性について考えるための支援が必要と思われる。また、進路情報に関する情報提供を増やしていく必要は大きいと思われる。

(2) 上記(1)～(4)から、今後の進路指導を充実させるための支援として、次のようなことを意識していく必要があると考えられる。

○生徒のニーズを知り、それに応える努力をする。現状におけるニーズとしては、進路情報提供(例:進路指導室だけでなく教室へも資料を整備し、利用しやすい環境をつくる)の充実等が考えられる。

○他校で実践されている「産業社会と人間」の通年実施や学科の特色を生かしたインターンシップを参考にすることにより、将来の見通しを持たせることや職業に対する自覚を高めることに効果が期待できる部分もあると思われる。

○進路に対する不安やあせり強い傾向は今後も続くと思われるため、進路相談を充実させていく必要があると考えられる。生徒の実態を考え、本当に生徒の立場にたった相談活動を行うためには、「自己理解(適性理解含む)」「職業理解」「啓発的体験」の3点に関する進路学習を1、2年次に積極的に取り入れ、キャリア・アンカーについて考える機会を多く持たせることが大切になるとと思われる。

特に「啓発的体験」は進路意識向上と個々の生活向上の絶好の機会であるため、活動終了とともに学習を終わらせるのではなく、時代のニーズを考慮したソーシャルスキルトレーニング学習を行ったり、SGEによるシェアリングを事後指導に行ったりするなどの工夫をこれまで以上に行っていく必要があると考える。

ウ. 所属学年生徒の実態と所属学年教師の予想する実態との比較と考察

所属学年生徒の実態と教師の考えている実態を比較し、意識の差を見ることで現状の進路指導の問題点や改善の方向性について明らかにしたいと考えたので、下記のアンケート調査を行った。

※M1～M4の単位は%。()内の数字は学年所属教師群(以下「教師」と記す)の予想数値平均。

※比較の差が20%以上見られた項目については、 で示した。

質問番号	質問項目	質問の観点	M1	M2	M3	M4	比較から
			とても思っている(N)	どちらかといえば思っている(N)	どちらかといえば思っていない(N)	全く思っていない(N)	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	10(13)	31(29)	41(43)	22(15)	差はそれほど見られない。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		19(14)	30(26)	40(43)	11(17)	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	23(12)	43(27)	21(44)	13(17)	教師は「生徒はあまりあせりや不安を感じていない」と考えている傾向にあるが、生徒は教師の予想以上に進路について考えたり悩んだりしている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		19(26)	43(35)	20(27)	18(12)	
5	私は進路について考えることがよくある。		24(24)	44(24)	25(33)	7(19)	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	4(13)	3(12)	16(20)	77(55)	教師は生徒の5割は希望進路先の見学等を全くしていないと考えているが、実際は7割以上が全くしていない。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		11(13)	16(19)	30(36)	43(32)	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	44(28)	41(29)	11(33)	4(10)	教師は「生徒は進路に対する自覚があまりない」と考える傾向にあるが、生徒は教師の予想以上に自覚を持っている。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		34(22)	44(26)	16(36)	4(16)	
10	私は仕事をやる意義や目的について自分の考えを言える。		16(10)	24(18)	49(52)	11(20)	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	17(27)	29(31)	36(23)	18(19)	差はそれほど見られないが、親しい友人と進路について話すことについては教師の予想よりも低い傾向にある。
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。		24(20)	35(29)	28(35)	13(16)	
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		26(26)	38(29)	27(33)	9(12)	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。	適性について自己理解に努めているか	14(16)	39(20)	31(43)	16(21)	差はあまり見られないが、項目17については自己理解がややできていないと考える生徒も多い。
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。		11(23)	25(27)	51(34)	13(16)	
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。	進路選択をするうえで自己を客観的に見つめようとしているか	19(14)	37(25)	32(43)	12(18)	教師は「生徒は適性の活用の仕方をまあまあわかっている」と考えている傾向にあるが、実際はつきり「わかる」と答えているのはわずか7%である。
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		7(25)	19(31)	53(29)	21(14)	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。		24(19)	33(29)	37(29)	6(14)	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	15(19)	30(29)	40(33)	15(14)	差はあまり見られない。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		20(17)	29(26)	39(40)	12(17)	

【結果】

- (1) 項目3、4、5から、教師の予想以上に、所属学年生徒（以下「生徒」と記す）は進路について考えたり悩んだりしている傾向にある。
- (2) 項目6、7から、生徒は教師が予想するほど啓発的体験等に参加していない。
- (3) 項目17から、教師の予想と異なり、生徒は職業適性の生かし方が分からない傾向にある。

【まとめと考察】

- (1) 教師が考える以上に生徒は進路に対する自覚や関心があるが、考える以上に不安やあせりも大きい。普段の学校生活でそれを見抜くのが難しいのは、生徒が集団の中で人間関係に気を使ったり、集団の雰囲気流されたりすること多いからではないかと考えられる。2年のうちに無理のない形でSGEを取り入れた進路学習をLHRに取り入れたり、個別に進路相談を行ったりして「生徒と生徒」「生徒と先生」相互の関わりを増やすなどの支援を行えば、安心して本音を語れる進路環境が整備されていくと思われる。
- (2) 教師がさかんに奨励しているにも関わらず、啓発的体験への参加をためらったり、乗り気になれないまま長期休業を過ごしたりする生徒は少なくない。これについては、教師自身も生徒とともに進路指導室に足を運んで相談にのるなどの具体的なアクションを起こすことで解決できる部分もあると思われる。以前啓発的体験の参加を考えているという生徒から相談を受けたとき、「仲のよい友人を伴って教師と一緒に進路指導室に行き」「一緒に参考資料に目を通し」「一緒に ①具体的交通手段 ②参加日時 ③質問項目を確認し」「友人にも一緒に行ってもらようようお願いし」「参加後に友人とともにできる『お楽しみ』をつくる」といった支援を行ったところ、実際に参加できた例もある。
- (3) 啓発的体験の一環として、身近な社会人や卒業生から経験談を聞く機会を持つことも進路意識を向上させる手段として有効ではないかと考えられる。現在所属校では「先輩の話を聞く会」「外部講師（村山市近辺の企業関係者）による進路講話」等が毎年実施されているので、それを生かすような形で事前・事後指導を工夫し、学科や学級による方策を立てていくといった支援を行ってみることも今後必要ではないかと思われる。
- (4) 教師が考える以上に生徒は自分の長所や適性に関する自己理解がない傾向にある。この分野の解決はSGEが最も得意とするものであり、エクササイズを工夫することで仲間づくりを行いながらキャリア・アンカーを考えることも可能である。よって学級の実態等に応じて、適切な時期に適切な形でSGEを取り入れることは、生徒にとって望ましい支援の一つになるとと思われる。

(4) 実践研究

SGEの考えや技法を取り入れた授業を実践し、結果を検証するために、下記の通り研究授業を実施した。

実施場所：県立村山農業高等学校

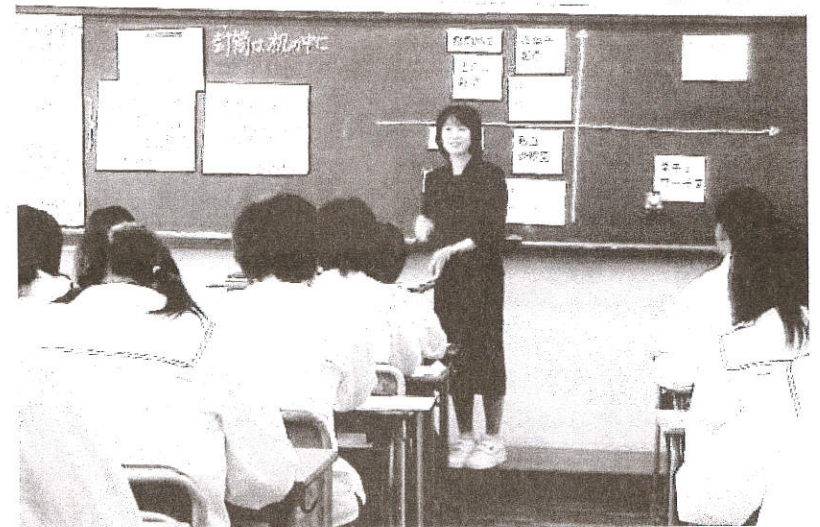
対象生徒：県立村山農業高等学校 食品経済科 第2学年3組生徒37名

授業日時：平成15年7月10日（木） 4時間目（11:55～12:45）

〃 11日（金） 2時間目（9:55～10:45）

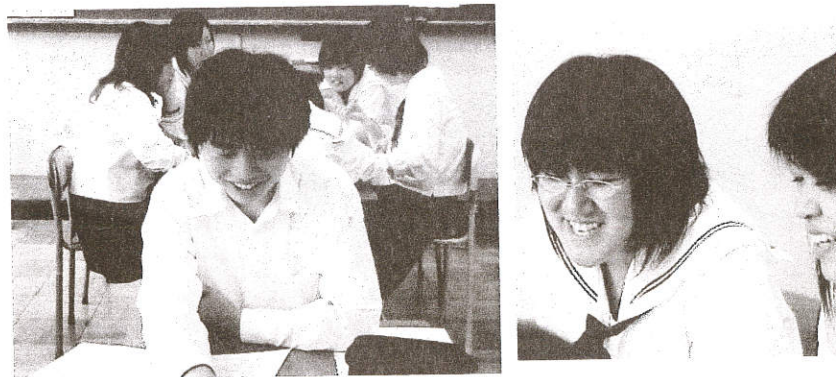
授業者：MT 小山和彦教諭（第2学年3組担任）

ST 山口恵子教諭（県教育センター長期研修生）



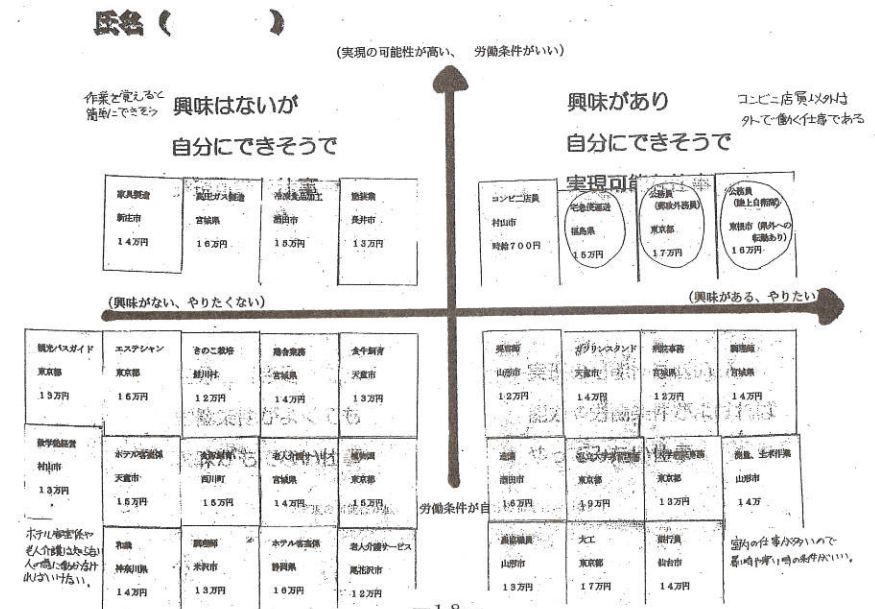
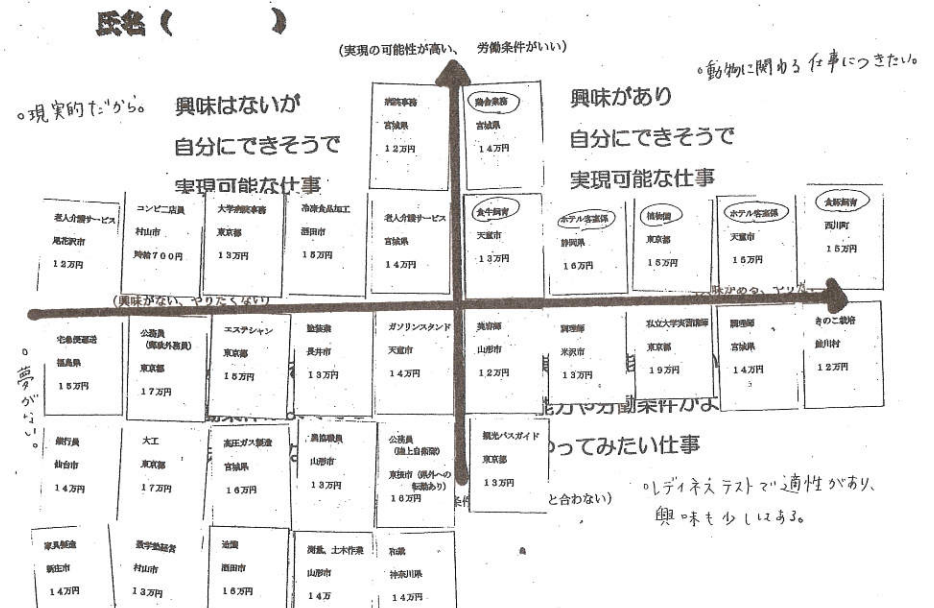
(ア) 授業者としての反省

- ①一日目は時間を気にするあまり MT,ST ともにペースが速くなり、キャリア・アンカーを考えさせていくための発問や説明があっさりと終わってしまった。
- ②生徒の使用する「職業カード」とパワーポイントの画面表示が完全に同じ形になっていなかったため、生徒が作業を行う際戸惑いを覚えた場面があった。
- ③一日目は MT,ST とも自己開示の場面がないままに終わってしまった。二日目は MT,ST 双方の自己開示があったことにより、本音を語り合える雰囲気生まれ、シェアリングが活発化した。
- ④「学習カード (※次頁参照)」の領域の分け方に誤りがあった。また、カードにはキャリア・アンカーを記入するスペースを明示したほうがよかった。
- ⑤SGE の際、手元にプリントを置いてそれを見ながら発表している生徒が殆どだったため、声が小さくなり話が聞き取りにくく感じられた。発表の仕方などのモデリングをもっと生徒の活動に即した正確な形で行うべきであった。



(イ) 学習カードに記載されたキャリア・アンカーの分析から

【生徒が記入した学習カードの例】



ウ. 研究授業後のアンケートの結果と考察

【アンケートの集計結果】

	質問項目	「そう思う」 「少しそう思う」と 答えた生徒の数	「そう思わない」 「あまりそう思わない」と 答えた生徒の数
1	私はこの学習を行ったことで、職業に対する自分の向き・不向きが前より分かるようになった。	36	1
2	私は今回の学習を行ったことで、進路に対する不安やあせりが減った。	27	11
3	私は今回の学習を行ったことで、具体的に進路について考えたいという気持ちが強まった。	37	0
4	私はこの学習を行ったことで、積極的に進路情報を集めたいという気持ちが強まった。	36	1

【自由記述の内容の分類から】

主 な 内 容	記述した 生徒の数	記 述 例
「友達の励ましやアドバイスに喜びや自信を感じた」	28	「やりたい仕事に向いていると言われ嬉しかった」「不安が自信に変わった」等
「自己理解や適性理解が深まった」	18	「希望進路は本当に自分にあっているか前よりわかるようになった」等
「進路を積極的に考えてみたい」	12	「進路指導室に行ってみようと思う」「計画的に進路を考えなくなった」等
「友達にアドバイスや思いを伝えられたことに喜びを感じた」	2	「友達にアドバイスできてよかった」「思いを伝えることは自分の自信につながった」等
その他	6	「(SGE は) 恥ずかしかった」「あせってきた」等

【まとめと考察】

アンケートの結果から、今回の授業は

「進路適性の理解」(項目1から)」

「進路に対する不安の軽減」(項目2から)」

「進路に対する意欲の喚起」(項目3から)」

「積極的な進路情報意欲の喚起」(項目4から)」

の4点について、職業についての興味・関心・適性に関する意識を深めることに効果が見られた。

今回の学習におけるSGEによる効果は大きかったと考えられるため、本学級においては今後も適切な形でSGEを取り入れながら進路指導を行うことで、さらに人間関係が向上し、進路意識にも好影響があるのではないかと考えられる。

7. 今後の課題

○実践研修については、学年の4学科のうち1学科でしか研究授業が行うことができなかったため、学科間の違いを比較検討できなかった。また、授業数も2時間と少なかったため、今後、生徒の実態にあったエクササイズについて実践し、検証を行っていきたい。

○いわゆる「出口指導」にあたる実践指導についての経験や知識の不足を補っていきたい。

○所属学年生徒は来年3年生になるため、「方策の施行」「適応指導」についても今後研究を深めたい。

8. 主な参考文献一覧

- 片野智治編集代表「エンカウンターで進路指導が変わる」 2001 (図書文化社)
- 木村 周「キャリア・カウンセリング ー理論と実際 その今日的意義ー」 1997 (社団法人雇用問題研究会)
- 厚生労働省職業安定局監修「職業ハンドブック CD-ROM 検索システム Ver. 1.1」 1998 (日本労働研究機構)
- 國分康孝監修「エンカウンターで学級が変わる 高等学校編」 1999 (図書文化社)
- 國分康孝編集代表「進路指導と育てるカウンセリング」 1998 (図書文化社)
- 実務教育出版発行「進路ジャーナル 5月号」 2003
- 日本進路指導協会発行「進路指導 5月号」 2003
- 文部省「学校における教育相談の考え方・進め方 中学校・高等学校編」 1990
- 文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 中間まとめ」 2003
- 吉田辰夫「21世紀の進路指導辞典」 2001 (ブレーン出版)
- リクルート社発行「リクルートキャリアガイダンス Vol.6」 2003

【参考ホームページ】

- 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)
- 日本進路指導学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsscg/>)
- 日本進路指導協会 (<http://www.7.ocn.ne.jp/~shinro/>)
- 全国高等学校進路指導協議会 (<http://www.mnjp.or.zenkousin/>)
- JavaScript-STAR (<http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star>)

9. 終わりに

長期研修を終えるにあたり、今回の貴重な研修の機会を与えてくださった山形県教育委員会の皆様、山形県教育センター野口所長はじめ諸先生方に心より感謝申し上げます。とりわけ、お忙しい中懇切丁寧に御指導・御助言くださいました西村仁美先生に心より御礼申し上げます。また、長期研修生担当の官宏先生、加藤勝徳先生、研修生活を温かく見守ってくださった山家教育相談部長をはじめ教育相談部の先生方、視聴覚機器操作に関して丁寧に御指導くださいました大津情報教育部長はじめ情報教育部の先生方、アイデア集作成に際し御協力くださいました高橋良治先生、統計処理について丁寧に御指導くださいました小山田正幸先生にも厚く御礼申し上げます。

さらに、聞き取り調査に際して御協力いただきました県立置賜農業高校の鈴木雄一郎先生、県立東根工業高校の結城衛先生、県立天童高校の加藤亨先生、県立霞城学園高校の吉田洋先生、そしてアンケート調査実施にご協力くださいました上記各校第2学年の先生方にも、心より御礼申し上げます。

最後になりますが、今回快く研修に出してくださいました県立村山農業高校の長谷川肇先生をはじめ諸先生方の温かいご支援に、厚く御礼申し上げます。

教育相談の技法を生かして「人と関わる力」を育てる研究

山辺町立山辺小学校

教諭 高橋 宏一

I 研究の概要

- 1 主題設定の理由と研究のねらい
- 2 研究仮説
- 3 研究内容と構想図

II 実践研究

- 1 「関わる力」についての児童の実態
- 2 事前調査からの考察
- 3 授業実践
- 4 児童の変容



III 研究のまとめ

- 1 研究の成果
- 2 今後の課題

主な参考文献

「変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究」	岩井 俊憲	県教育センター
「勇気づけの心理学」	岩井 俊憲	金子書房
「教師のためのソーシャルスキル」	河村 茂雄	誠信書房
「学校現場で使えるカウンセリングテクニック (上・下)」	諸富 祥彦	誠信書房
「エンカウンターで学級が変わる」	國分 康孝	図書文化
「ショートエクササイズ集」	國分 康孝	図書文化
「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」	小林 正幸	図書文化
「サイコエデュケーション」	國分 康孝	図書文化
「VLFによる思いやり育成プログラム」	渡辺 弥生	図書文化
「エンカウンターで道徳」	諸富 祥彦	明治図書

I 研究の概要

1 主題設定の理由と研究のねらい

私が担任している1年生の「人と関わる力」とは、「自分の気持ちを相手に伝え、共に活動できる力」ととらえている。

本学級では、「入れて」という声かけができずに友達遊びをながめている子、すぐに暴力で訴える子、「ごめんなさい」が言えずにトラブルになる子など、「人と関わる力」の不足から問題が起こる。こうしたことは以前担任した高学年でも見られ、「人と関わる力」をより一層指導していく必要があると感じていた。

また、山形県小学校低学年の担任へのアンケート1)でも、「中・高学年の発達課題と同様に、自尊感情や自己有用感がもてず、言い出しにくい事柄について相手と関わりにくい傾向が見られる」という調査結果があり、人間関係づくりを低学年から行う必要性が述べられている。

そこで、本学級でも、構成的グループエンカウンター(SGE)やソーシャルスキルトレーニング(SST)、アサーショントレーニング(AT)など、教育相談の理論や技法を生かして、児童の「人と関わる力」を道徳や学級活動、保護者との連携などを通じて実践し、意図的に育てていくことが必要だと考え、その手だてを探るために本主題を設定した。対象児童が1年生ということから、観察や面接を中心にその変容をとらえ、検証していきたい。

1)『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究(2003 山形県教育センター)』

2 研究の仮説

構成的グループエンカウンターやソーシャルスキル、アサーショントレーニングなどの教育相談の理論や技法を生かして、短学活での指導や道徳・学級活動の授業を行ったり、保護者と連携して関わったりしていけば、児童に「人と関わる力」が育つであろう

3 研修内容

(1) 文献による基礎研究

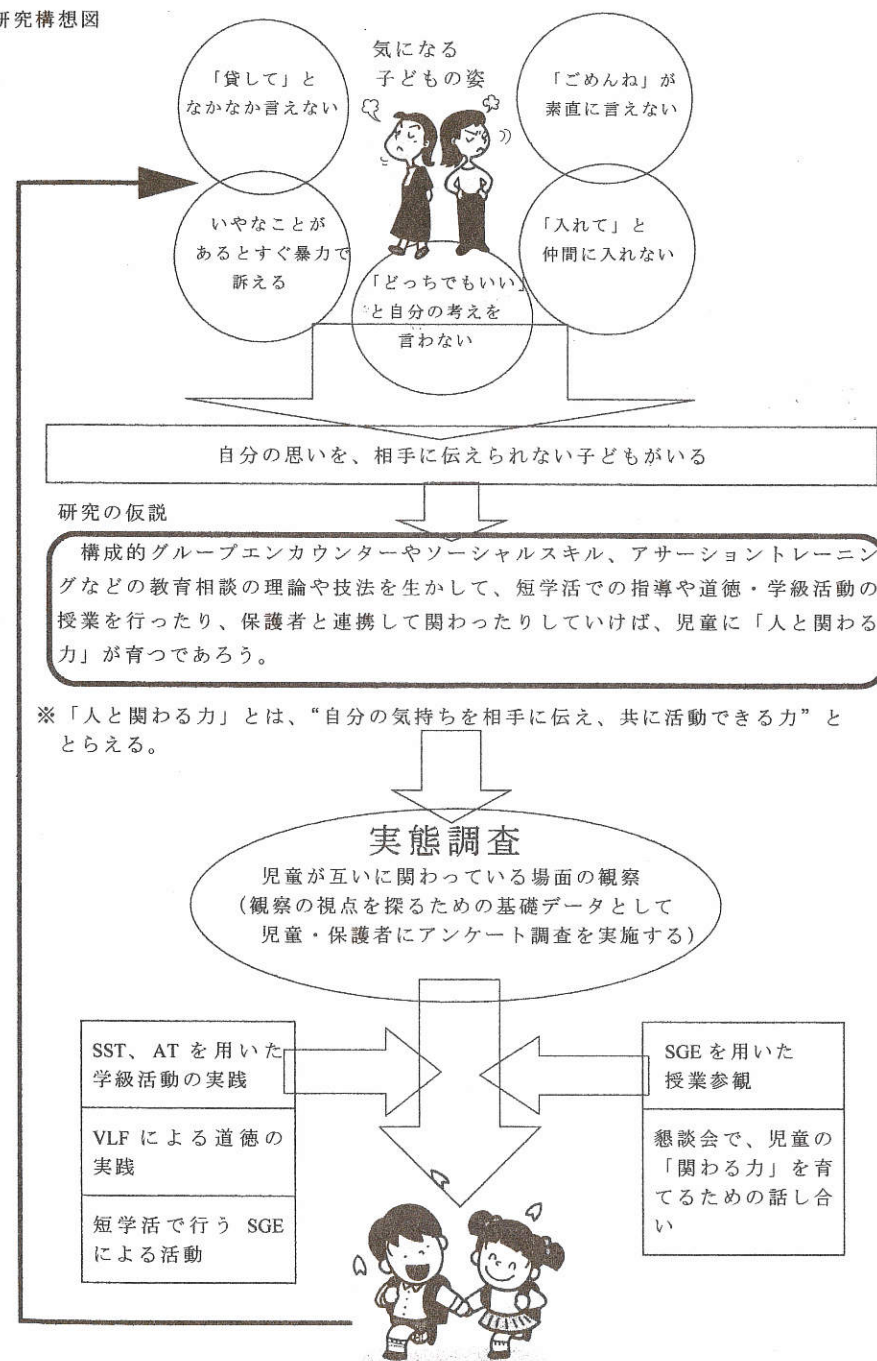
- ① いじめ・不登校に関する研究
- ② カウンセリング理論(SGEやSST、AT)や技法に関する研究
- ③ 実践事例の研究

(2) カウンセリング技法の演習(所外研修会への参加)

(3) 実践研究

- ① アンケート調査(児童・生徒)の実施(観察の視点を探るための基礎データ)
- ② 教育相談の技法を取り入れた学級活動や道徳の授業案作成と授業実践
- ③ 授業参観及び学級懇談会を通じた、家庭との連携のあり方
- ④ 「人と関わる力」を育てる活動の有効性の検証
- ⑤ 学級活動・道徳・短学活で育てる「人と関わる力」の年間計画作成

研究構想図



II 実践研究

1 「関わる力」についての児童の実態

1 学期、児童と接してきて、次のよううまく関わる事ができていない姿が見られた。

- ・自分から友達に声をかけることが難しい（特にD男、M男、S子、K子）
- ・言葉でうまく伝えることができず、攻撃的な態度にでしてしまう（特にK男、T男）
- ・人の失敗やうまくいっていないことを指摘してしまう（特にA子、Y子）
- ・「ごめんなさい」がなかなか言えない（特にR男、A子）

2 事前調査からの考察

児童及びその保護者にアンケート調査を実施した。児童には、「友達への自分の関わり」と「友達から受ける関わり」について2回行った。保護者には、家庭で見られる「子どもと友達の関わり」について実施した。ただし、児童へのアンケート調査については、対象が小学1年生ということもあり、統計的に分析するのではなく、そこから読みとれる傾向についてまとめた。

(1) 児童のアンケートより

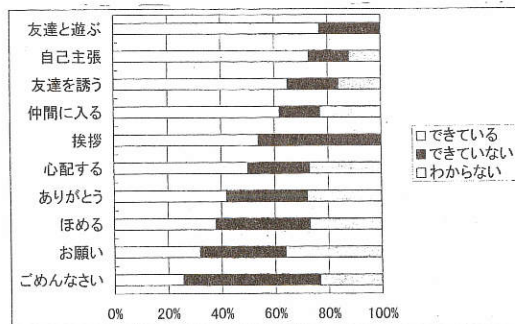
○特徴的なこと

- ・友達への関わりが多い児童は、友達からの関わりも多いと感じている。
- ・遊びの仲間に入ったり、友達を誘ったりしてよく遊んでいる。
- ・「大丈夫?」「元気出して」などの相手を心配する言葉がけは、よくしていると感じている。友達にも声をかけてもらっていると感じている。
- ・「ごめんなさい」という謝罪の言葉がけ、「すごいね」「頑張っているね」などの励ましの言葉がけが、あまりできていないと感じている。
- ・友達への関わりをあまり持っていないと、自分でも意識している児童がいた。

(2) 保護者へのアンケート調査より

①アンケート調査の結果から

親から見た子どもと友達の関わり（1年1組保護者28名）



②保護者の記述より

- ・今の子どもは、少人数でしか遊ばないようで、「今日は〇〇ちゃんと遊ぶから△△ちゃんとは遊べない」と言うような関係である。多人数で遊ぶと問題が起きてしまう。コミュニケーションのとり方を知らない、家でも親子の会話をなかなかする時間がないことも原因だと思う。忙しいながらも、子どもの話を聞いてあげて、自分で話す楽しさを感じていけば、友達と話す楽しさ・関係づくりなどもうまくいくのではないかと思います。
- ・最近いろんな友達と遊ぶようになりました。友達と遊具などで外で遊ぶこともありますが、家の中にいると、必ずゲームを始めます。せっかく友達がいても、一人でのと同じでは友達とコミュニケーションがとれない子になるのではないかと不安になることがあります。
- ・友達が自分の方を向いてくれないと、自分から折れるのではなく、「どうせ俺なんか…」とふくれることが多い気がします。友達がそばにいることの意味・大切さをまだ知らないのかもしれませんが、「友達」というものをどう理解させればよいか、とても難しいことです。
- ・テレビゲームで遊んでいると、コミュニケーションがとれずに、友達との関係が正しくつくれない気がします。保護者が進んで外で遊ぶようにさせないといけないと思います。

(3) 考察

①児童について

- ・「友達と遊ぶことがある」と児童全員が感じている。入学当初から、関わりをつくる構成的グループエンカウンターを取り入れたり、共に遊ぶ機会を意識的に設けたりしてきたことが、関わりをつくる一つの要因になったと考えられる。
- ・仲間に入ったり、友達を誘ったりして遊んでいるという意識は高かった。教師の見方とのずれが感じられたので、今後遊びの様子を観察して、関わり方を明らかにしていきたい。
- ・「大丈夫?」「元気出して」などの相手を心配する声かけができていていると感じている。牛乳をこぼす、ころぶなど、困っている友達を助けようとたくさんの児童が集まる姿からも、友達の痛みを感じることができる児童が多いことがわかる。クラスの良さとして児童にフィードバックしていきたい。
- ・「ごめんなさい」という謝罪の言葉がけがあまりできていないと感じている。学級の様子を見ても、「ごめんなさい」とすぐ言葉で返すことができる児童は多くない。怒られることへの不安が先になってしまうものと考えられる。ソーシャルスキルトレーニングと共に、自尊心を高めることも必要であると考えられる。
- ・1年生から、友達に声をかけることが得意でない児童が明らかになったことで、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどを行い、さらに人と関わる楽しさ・よさ・安心感を体験させていきたい。

②保護者について

- ・「ごめんなさい」という謝罪の言葉がけがあまりできていないと感じている。児童の調査と同じ傾向が見られた。懇談会でもお知らせし、謝罪の時は理由をしっかりと聞いてあげるなど、関わり方について保護者と一緒に考えていきたい。
- ・「すごいね」「じゃうだね」などの励ましの言葉がけもあまりできていないと感じている。保護者とも連携を図り、プラスの声がけが、学校・家庭でなされていくことで、児童も自分を大事にし、友達も大事にしていくような気持ちが育っていくと考える。

以上の実態を踏まえて、次のような全体計画を立てた。

〈全体計画〉

①ねらい

- ・「ごめんなさい」「貸して」という児童がうまくできていない関わりの言葉をソーシャルスキルトレーニングの技法を用いて練習することで、日常でも使えるようにし、児童が相手に気持ちを考えて関わるようにする。
- ・道徳や構成的グループエンカウターの技法を用いて互いを認め合い、その心地よさに気づき、相手にも自分にも肯定的に関わるようにする。
- ・保護者と連携することで、同じねらいのもとで「関わる力」を育成できるようにする。

②研究計画

	研究内容	備考
10月	・基礎研究 ・研究計画書の作成	研究計画書の提出
11月	・アンケート調査（児童・保護者） ・授業実践 学級活動「おねがいしよう」（ソーシャルスキルトレーニングの技法を用いて） ・授業実践 学級活動「いいとこさがし」（授業参観）（構成的グループエンカウターの技法を用いて） 学年懇談会「関わりの上手な子どもに」 ・授業実践 学級活動「ことわってみよう」（ソーシャルスキルトレーニングの技法を用いて）	
12月	・授業実践 道徳「けんか」（ロールプレイを用いて） ・研究のまとめ ・研究報告書の作成	研究発表会

3 授業実践

児童に「人と関わる力」を育てるために、次のような手法を用いて授業実践を行った。

(1) 構成的グループエンカウター (SGE)

①ねらい

集団学習体験を通して、行動の変容と人間的な自己成長をねらう。

②エクササイズの種類

- ・自己理解（自分の本音を知る）
- ・他者理解（他者の本音を知る）
- ・自己受容（ありのままを受け入れること）
- ・信頼体験（他者とのつながりを体験すること）
- ・感受性の促進（新たな気づきをすること）
- ・自己主張（本音を表現すること）

③効果

- ・自己開示による本音の交流が行われ、他者との親近感が増す。
- ・ありのままの自分や他者を受け入れることにより、見方がポジティブになる。
- ・何でも話せる雰囲気、弱音が吐ける人間関係がつけられる。

④1年生で行う上での配慮

- ・教師をリーダーとして、短いエクササイズを繰り返し行う。
- ・体を動かすことや何回も参加できるようなエクササイズを行う。
- ・振り返りは、教師からのフィードバックのみでまとめるなどで終了するなど、エクササイズの体験を大切にする。

(2) ソーシャルスキルトレーニング (SST)

①ねらい

人間関係に関する知識と具体的な技術を身につける

②ソーシャルスキルの種類

- | | |
|-----------|-------------------|
| ア あいさつ | キ やさしい言葉がけ |
| イ 自己紹介 | ク 気持ちをわかってはたらきかける |
| ウ 上手な聴き方 | ケ やさしい頼み方 |
| エ 質問する | コ 上手な断り方 |
| オ 仲間の誘い方 | サ 自分を大切にする |
| カ 仲間への入り方 | シ トラブルの解決策 |

③効果

- ・対人関係のあり方がわかり、よりよく適応したり、互いの意志をよりの確に伝え合ったりできる。
- ・将来出会う様々な人間関係に対応できる予防的効果がある。

④1年生で行う上での配慮

- ・モデリングを大事にし、子どもにイメージをしっかりと持たせる。
- ・リハーサルを行う時には、どの児童にも楽しんでできる雰囲気をつくることが大切である。

(3) 自己主張訓練（アサーション・トレーニング）

①ねらい

相手を傷つけずに自分の考えをしっかりと主張することをトレーニングによって身につける。

②自己主張の仕方

ア 自分の考えが絶対的に正しく、相手の意見は間違っていると決めつけ、相手を大切にしない話し方（攻撃的）

イ 相手は大切にするが、自分の考えを押さえてしまう話し方（非主張的）

ウ 相手を傷つけずに自分の勸化をしっかりと主張する話し方（アサーティブ）

③効果

- ・ピア・プレッシャー（仲間はずれにされたくないと言う集団圧力）から「ノー」と言えない負担が減り、児童のストレスが軽減される。
- ・児童の言葉遣いが向上し、好ましい人間関係をつくる。

※自己主張訓練とソーシャルスキルは、重複する部分かなりある。



道徳の授業実践より「おれのランドセルたぐな」

授業実践1

学級活動「おねがいしてみよう」（指導案 P 18）

ロールプレイを通して、言い方によって受ける印象が全然違うことを体験した。

- T みんなが考えたいろんな言い方で、隣りの人から、鉛筆を借りてみましょう。言われてどんな気持ちだったか、隣りの人に教えてください。
- C1「筆箱忘れたから、鉛筆貸してください。」って、頼んだら素直に貸してくれた。
- C2「鉛筆貸せ」と言われた。すごく怖かった。貸しなくなかった。
- C3「こら、鉛筆貸せ」と言ったら、あっかんべーされちゃった。
- C4「鉛筆貸せよ。」といわれたら、ムカムカした。
- C5「一本でもいいから貸してください。」って言われたら、とてもやさしい気持ちになった。
- C6「鉛筆貸せよ。」なんて言う人は、借りる資格がないと思う。

授業を行っての反省

- 「ロールプレイ」をあまり体験したことがない児童であったが、演じることで自分の気持ちを素直に表現することができた。言葉として「いい言い方、悪い言い方」はわかっているが、実際やってみることで、言い方によって、相手の受け止め方が違うことを実感できた。
- 様々なパターンにすぐなりきることができる1年生にとって、ロールプレイを活動に取り入れることは大変有効である。
- 「貸したくなる言い方」＝「しずかちゃんの言い方」と児童の身近なキャラクターを用いたことで、イメージしやすくなりリハーサルのいいモデルになった。
- 「貸したくなる言い方」＝「やさしい言い方」と情緒的な言葉で受け止めてしまったため、どんな言い方がいいのか抽象的になってしまった。児童がリハーサルしやすいように、具体的な姿として提示した方がよかった。



授業実践2

学級活動「ことわってみよう」(指導案P18)

ロールプレイを行って、どんな断り方がいいか話し合った。

T どんな言われ方をすると、いやじゃないですか。

C1 やさしい言い方だといい。

C2 声もやさしく言うといい。

C3 明るい顔で話した方がいい。

C4 ピアノだから遊べないと言った方がいい。

C5 かみ切りいくから遊べないのと言う。(この後、他の理由もたくさん考えさせる)

T ~だからって、言った方が何で遊べないかわかっていいんだね。ほかにある?

C6 断られてくやしかったけど、今度遊ぼうと言われると、ちょっとうれしかった。

C7 「ごめんなさい」と言われると、遊べないことがよくわかっていい。

(その後、発表に出た言い方をまとめて、練習した)

「例 ごめんね。今日映画にいくから遊べないんだ。明日なら遊べるんだけど。」

授業を行っての反省

○前回に比べ、表情・声・言い方など、具体的な気づきが多く見られた。どの表現がいい言い方なのかを問うことで明確化され、ロールプレイにしっかり反映できた。

○断られた後も、「いいよ」「また今度ね」とにっこりして答える児童が見られた。「断られても大丈夫。また誘ってみよう」という安心感を体験できたことも、ロールプレイを取り入れたよさとなった。

○前回、なかなか練習できなかった児童も、今回は進んで話す姿が見られた。話し方がより明確になったこともあるが、繰り返していくことで慣れてくることもあるようだ。今回のような1時間を使った授業も必要だが、短い時間でも、何度も繰り返していくことが、1年生には特に大切だと感じた。



授業実践3

学級活動「いいことがし」(指導案P19)

学年懇談会「関わりが上手な子どもにするために」

友達によさが見つけれず、教師のアドバイスカードを参考に書いた児童もいたが、「〇〇ちゃんのいいところ知ってる」「〇〇君にも書きたい」など、とても意欲的に取り組んだ。児童や保護者のコメントを紹介する。

○児童のコメント

①頑張りの認め

- ・〇〇ちゃんは、いつもきれいな字を書けていてすごいね。
- ・ドッチボールで、ボールを投げるのが上手でいいですね。
- ・〇〇ちゃんは、歌がとっても上手です。

②内面の気づき

- ・〇〇君は、友達がいっぱいいいと思います。
- ・いつも楽しいことをいっぱい言ってくれていいね。
- ・〇〇ちゃんは、誰かが話しかけるとすぐに答えてくれていい人だと思います。

③表情

- ・〇〇君は、いつもニコニコしていていいですね。

など

○保護者のコメント

①頑張りの認め

- ・「いってきます」「ただいま」と元気に挨拶できるところがよいです。
- ・繰り上がりの計算ができるようになってよかったですね。

②内面の気づき

- ・お友達といっぱい遊べて素敵だね。
- ・お兄ちゃんがおこられている時、かばってくれるやさしい気持ちがいいね。

③感謝

- ・いつもお母さんの手伝いをしてくれて、本当に助かります。
- ・いつも「おかえり」と言ってくれて、ありがとう。

など

〔授業を行っての反省〕

○1学期から、図工で友達の絵をいいところを探したり、上手に書いている字を見つけたりして友達のよいところを認める活動を行ってきた。今回の子ども達のコメントを見ると、様々な視点で友達のよさを見つけることができるようになってきている。繰り返していくことで、友達を見る目が育っていくと考えられる。

○友達にほめてもらって「うれしい」「ありがとう」と感想を書いている児童がほとんどであった。グループごとに声に出して一人一人のよさを読み上げたが、にこにこしたり、照れくさそうにしたりしながら聞いていた。

○保護者にも参加してもらったことで、たくさんのよさをひきだすことができた。保護者の感想に「自分のよいところを母親に実際文章にしておうことが自信につながったと感じました。メッセージを見た時、とてもうれしそうでした。」とあった。「ありがとう」という言葉が多かったことから、日頃の子どもの頑張りに感謝するいい機会にもなった。

学年懇談会での話し合い

次のような視点で、保護者へ話題提供を行った。

- (1) アンケートから見た児童の実態
- (2) 実態からみた児童に付けたい力
 - ・自己肯定感を高める
 - ・自分の気持ちを伝えられるようにする
- (3) 力を付けるための方法
 - ・いいところ探し
 - ・Iメッセージで話す
 - ・話す機会を作る（資料配布）
- (4) 活動について

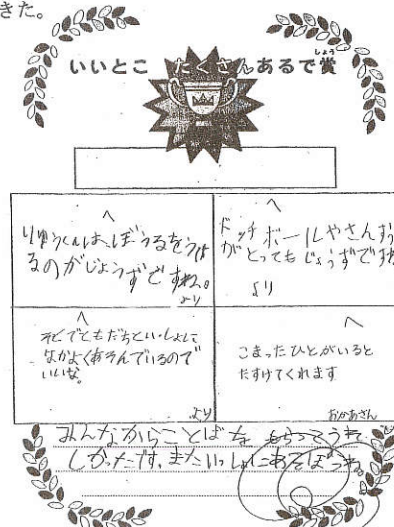
話の中で、実際子どもの「いいところ探し」の活動を行った。「すごいところ」を探すのではなく、「当たり前」にできているところを書き上げてもらった。5分という短い時間であったが、紙いっぱいによさを書き続ける保護者も見られた。

保護者の感想から

- ・子どものよいところを探そうとするとなかなか探せないけれど、“普通にやれているところ”という考え方に立つと、いろいろ探せるものだなと思いました。常日頃、どういう気持ちでもどもを見られたら、もう少し接し方が変わるのかなと思いました。
- ・子どものよいところを思い出して、紙に書いてみて、「普通にできていること」の大切さが一番子どもを伸ばしていくポイントだなと思いました。子どもを温かく見つめていけるような気がしました。親も未完成なものだなあと、最近感じています。子どもと友に泣いたり、笑ったりと、少しずつ成長していきたいと思っています。
- ・普段から「忙しい」というのを理由に、自分の意見を一方的にしゃべり押しつけが多かったのでは？とやはり反省させられました。一呼吸、間をおくことを頭に置いておかなければと心に残りました。

懇談会を行っての反省

- 「保護者も頑張っている」と共感しながら話ができたことで、保護者に「これからやってみよう」という気持ちを持たせることができた。
- アンケートを行ったこともあり、児童の姿をより明確にして話すことができ、保護者にも現実的なこととして感じてもらうことができた。
- 話を聞くだけでなく、「子どもが当たり前」に頑張っているところをたくさん書いてみましょう」という活動を入れたことで、子どものことを見つめ直すいい機会となった。
- 懇談会后、何人かの保護者が残って話をしていった。学校から話題提供することで、より具体的な関わりについて保護者と話をすることができた。



授業実践4

道徳「ともだちとなかよくなろう」（指導案P19）

【道徳の実践力を育てるために】

これまでの道徳の授業は、資料をもとにして登場人物の心情を理解し、自分の生活を振り返るというような授業形態が多かった。児童にとっては、「気持ちはわかったよ」という心情面で終わってしまい、実際に子ども自身が直面する道徳的な問題を解決する「実践力」を養うものとはいえなかった。

今回の授業では、「友達と仲良くしていこう」という心情にとどまらず、どのような関わりをすればけんかにならずにすむのかという点まで話し合い、実践力を意識した授業を計画した。

T：先生は、2人にどんな話をしたと思いますか？

C1：仲直りしようと言ったと思います。

T：仲直りするには、何でけんかになったか話をしないと、またけんかしちゃうよ。

けんかにならないように、先生は何とアドバイスしたかな？

C2：2人とも、謝ればいと言ったと思います。

C3：「ごめんね、今度からしないよ。」と言えればいいと思います。

C4：先生が二人から話を聞いて、仲直りさせればいいと思います。

C5：ちゃんと、話をすればいいと思います。

【授業を行っての反省】

- 「友達と仲良くする＝けんかしないようにする」と考え、児童には具体的な姿を考えさせることができた。ロールプレイを取り入れ、実際にやってみることで実践力に結びついていくと考える。「道徳の実践力」を育成する道徳の授業実践をさらに積み上げていきたい。
- 「友達を見る」「うなずく」など上手な聞き方をしている児童が見られた。この児童をモデルにより聞き方をクラスに広げていきたい。
- 授業の中では、ロールプレイを行ってから代表児童に前で演じさせ気持ちを聞いたが、モデリングとして代表児童に演じさせてから、隣の児童とロールプレイした方がねらいがより明確化された。
- 振り返りの場面で、資料の「掃除の場面」から切り替えができない児童がいた。掃除場面でけんかになりそうな時、どうすればいいかは考えることができたが、生活の中での関わりとしては、あまり意識させることができなかった。1年生の場合、特に丁寧に発問して考え方を整理する必要があった。

〈年間活動計画〉

今回の実践をもとに、年間の活動計画を作成した。
リレーションづくりから始め、友達と関わることを楽しみながら、次第に内面を語り合えるような計画にした。

○ねらい

- ・様々な友達と関わり合うことで、仲間のいる楽しさ・よさ・安心感を体験する。
- ・児童の姿を観察しながら、いい関わり方を学ばせていく。

		構成的グループエンカウンター		ソーシャルスキルトレーニング	道徳	主な行事
		15分	45分			
4	学校や学級に慣れ、友達をたくさんつくる	あいさつゲーム	じゃんけん列車 (2年生の歓迎会)	あいさつリレー		入学式 授業参観・懇談会
5		進化じゃんけん (体育と関連)	サッカー じゃんけん (学年集会)	あかるい あいさつ		
6		あいこじゃんけん		上手な聴き方 (国語と関連)		運動会
7		じゃんけんなどを使った関わりをつくるエクササイズ			2わのにわとり	夏休み 家庭訪問
8	友達と仲良く過ごす	何でもバスケット				夏休み
9		好きなものビンゴ				1学期終了 通知用配布・懇談会 (保護者1分間スピーチ)
10		質問じゃんけん		上手な頼み方 やさしい断り方		授業参観
11		質問したり、握手したりしてふれあっていくエクササイズ	いいところ探し (授業参観)			学習発表会 授業参観・懇談会
12					けんか	個人面談
1	自分や友達のよさに気づく	さいころトーク		おしえてください		
2		他己紹介			困っている友達に	授業参観
3		ありがとうカード				通知表配布・懇談会 終了式

- ・ショートエクササイズについては、朝の会や帰りの会を中心に行う。
- ・道徳については、「友達と仲良くし、助け合う2-③」との関連を考えた。
- ・SGE、SSTについては学級活動で実施する。

4 児童の変容

授業実践や短学活での活動、保護者と連携したことで児童がどのように変容したか、観察を通して児童の姿から検証する。

〈観察の視点〉

- ・授業実践を行った日を含め、8回学級にいき、体育や休み時間など、児童が活動している場面に一緒に関わりながら観察し、教室に戻ってから記録した。
- ・授業中の関わりは、主に担任に観察・記録を依頼し、後日情報交換した。
- ・いい関わりが見られたときは、クラス全員に紹介する。また、関わりがうまくいっていないときはその場で介入し、よい関わりを体験させるようにした。担任にも同様の指導を依頼した。

(1) 児童同士の関わり

① 遊び時間の様子

〈関わりの発見①〉 口数が少なく、入学時は積極的に仲間に入ろうとしなかったS子
11月7日(金) 中間休み
休み時間になり、遊具で遊ぼうとする集団とボールで遊ぼうとする集団、広場で縄跳びをしようとする集団がばあつと教室から出ていく。S子は、何をしようか悩んでいたが、縄跳びを持って集団の近くで跳び始める。しばらく跳んでいると、近くのT子が「S子ちゃん、どっちが長く跳ぶのか競争しよう」と誘った。ニコッとうなずいて競争が始まる。S子が長く跳ぶと、T子は「もう一回。」と言って挑戦するが、かなわなかった。
別な遊びに移ったが、そのまま4人の仲間と楽しそうに遊ぶことができた。

「入れて」とは言わないが、友達の輪の中に入る方法を自分なりに考え実行した姿である。「口数が少ない子=仲間になかなか入れない子」という見方をしてしまっていたが、児童なりに関わり方を工夫している姿が発見できた。この姿から、友達の近くに行って仲間になろうとした前向きなS子の気持ちを見とり、クラスにも、「上手な関わり方」の例として紹介し、関わりを広げることができた。

〈関わりの発見②〉 自分に自信がなくあきらめてしまうことがあるR男と親友J男
11月7日(金) 昼休み
昼休み、R男が給食中に、「昼休みドッチボールしよう。」と誘ってきた。「いいよ。」と返事をすると、リーダー格のJ男をはじめ何人かの子が、「入れて。」「一緒にさせて。」と声をかけた。
ボールを持って外に出る途中、昇降口で2人の児童が「J男君、私たちも入れて。」と声をかけると、J男は「R男君が最初に言ったから、R男君さことわって」と答えた。2人の児童は改めてR男にことわるとR男は「いいよ」ととてもうれしそうに答えて、グラウンドへ走っていった。

R男は、うまくいかないことや苦しいことがあると、やる気を極端になくしてしまう所があった。アンケート調査でも、「自分から友達に関わり合うことがあまりない。」と答え、自分に自信がない様子がうかがえた。

昼休みの様子を見ると、児童の遊びの中にも、「筋を通す」ような大人の関わりがあったことに驚かされた。社会性を育てるために、「遊び」の大切さを改めて感じた。

R男は、J男によってみんなに認めてもらい、とてもうれしそうな表情だったし、その後も遊びの中心となって活躍した。「R男君が考えてくれたから、みんな楽しく遊べたんだよ。」という言葉がけを行うと、「またしたい」とにこにこしていた。友達もよさを認めていたことを知らせ、自己肯定感を高めていくようにした。

〈道徳の学習を生かして〉

自分で仲直りできた児童

12月5日（金）中間休み（担任の観察）

けんかした時、「先生、〇〇ちゃんが～したんだよ。」と訴えにくる。「そうされて私は～だったよ」と言わないと相手に伝わらないよ」と言う、戻っていつて話をしていた。その後は、仲良く遊んでいた。（担任の観察）

まだまだ、担任からのアドバイスが必要ではあるが、自分の気持ちを伝えることで、自分たちで解決できた例である。このような関わりを何度も経験していくことで、自分の気持ちを伝え、互いに折り合う関係づくりができていくものと考ええる。

〈ソーシャルスキルトレーニングの学習をいかして〉

12月9日（火）昼休み 遊びたくても声をかけることができなかったK子

休み時間、児童と一緒にドッチボールをした。何人かが「入れて」とか「一緒に入れてくれない?」と声をかけてくる。活発なJ男は、そのたびにときどきとチーム分けを行い、ドッチボールの輪は20人を越えていた。あまり友達に関わるのが得意でないK子も、近くまでできていたので、「一緒にやらない?」ときどきとしてみたと「やりなさい」と言ったので、「みんなに話してごらん」と声をかけた。すると、J男のところに行き、「私も入れてちょうだい」と頼むことができた。チーム分けてしてもらって、休み時間、みんなと楽しく活動することができた。

終わった後、感想を聞いてみると「みんなとドッチボールして楽しかった。また入れてもらうんだ」とうれしそうに話していった。K子は、どちらかというとあまり運動が得意な方ではなく、教室にすることが多かった児童である。友達に声をかけることができたことも成長であるが、みんなと楽しく運動できた経験を持ちに表すことで、関わってこうとする気持ちを高めることができた。授業を行うだけでなく、実践の場にも教師がタイミングよく関わることの大切さを学んだ。

②授業での児童の様子

〈ソーシャルスキルトレーニングの学習をいかして〉

（担任の観察・12月5日報告） 困ったことがあると固まってしまうM男 他

- ・今まで忘れ物をして黙っていたM男が、隣の子に、「教科書を忘れて来ちゃったから見せて」と頼んでいた。「いいよ」と言われて、うれしそうに勉強を始めていた。
- ・隣同士（M男、T子）で教科書を忘れてしまっているのを見つけたR子が、みんなと相談して「先生、私の教科書をTさん達に貸してあげて。私が休んでいるYさんの所に行って見せてもらったら、感動している?」と事情をきちんと話した。
- ・「～を忘れてきたので貸してください。」～をしたいので〇〇を貸してください。」の「～」のところが、はっきり言えるようになってきている。
- ・教室がざわざわしている時、ある男の子が「しずかにしろ!」と言ったのに対し、「その言い方でなく、もう少しやさしく言った方がいいんじゃないか」という声が聞こえた。また、しずかちゃんみたく言った方がいいんだよ」という女の子もいた。

困ったことが起こると固まってしまうM君であったが、自分から関わる姿が見られたことは、大変うれしいことである。教師の方から「困ったことがあったら隣の人にお願いしましょう。」とだけ伝えるのではなく、具体的な話し方を練習するという手立てをとることは、話すことを苦手にしている児童にとって特に大切なことである。

〈ソーシャルスキルトレーニングの学習をいかして〉

12月8日（月）体育の時間

体育の跳び箱の時、K子の後ろに並んでいたY男が何度も頭で背中を押していた。「やめて。」と大きな声で言っていたがY男はやめなかった。「言い方変えてみたら?」とアドバイスすると、「Y男君、背中おされると嬉しいの。やめてくれる?」と言い変えた。するとY男は、「うん」と言って違う列に行ってしまう。

教師が近づいてきたこともあるが、Y男はいたずらをしなくなった。K子に「きもちをしっかりと伝えたからストップしたんだよ。とってもいい言い方だったね。」とほめた。

このような場面を見つけ、繰り返し練習したり、児童にフィードバックしたりしていくことで、自分の気持ちを言葉で伝えることができるようになっていくと考える。

③家庭での子どもの様子（保護者より）

- ・以前、遊びに誘われて断る時、「だめ。遊べない」と言っていたのが、最近「今度遊ぼうね。」と言っていました。また、子どもがテレビを見ている時、新聞をめくっていると、「テレビ聞こえない!」と言っていたのが、「新聞かさかさしていると聞こえないよね。」と言うようになり、言葉遣いがやわらかくなったようです。
- ・上の子が友達と電話で話をしてたのを聞いて、私（母親）が「相手に対してもっと違う言い方があるんじゃない?」言葉を選べば、もっとスムーズに話が運ぶと思うよ。」と話していると、突然下の子が、「そうだよ。言い方があるんだよ。いい気持ちになる時といやな気持ちになる時があるんだよ。いい気持ちで言った方がいいんだよ」と嬉々としたような言い方をするので、どうしたんだろう。でもいいこと言うなあと感じていました。先生からのプリントを見て、学校で話をしてきたことが、少しは心の中に入っているんだなあと思改めて思いました。

単語で話していたのが、最後まで丁寧に話すようになったと感じている保護者からの感想がいくつかあった。「相手にきちんと伝えようとする」意識が感じられる。

(2) 保護者の関わり

〈親の関わりで子どもが変化している〉

- ・まず、親が変わらなければならないと思い、「ありがとう」を常に言うことになりました。最初は、なかなかうまく使えなかったし、子どもの方も「エッ?」と言う感じでしたが、だんだんと会話の中にもスムーズに出てくるようになりました。どうしてもおこらなければならない時は、深呼吸です。そしていつもより少し小さめの声で話す。すると子どもの口から、「だってね…」とか「～だから」とか、どうしてそうだったか聞くことができました。子どもの方も自然に「ありがとう」「ごめんなさい」が言えることが多くなってきています。
- ・買い物に行く時はいつも何か買ってしまうことが多かったのですが、最近は「今日はなぜ買ってあげられないのか」をきちんと説明するようにしています。すると、すぐわかるようになり、次からは「買って」と言わなくなりました。他のことで話をしても、穏やかに話そうようになってきました。
- ・言葉が短い文章が気になっていました。「お母さん、水」とか「お母さん、これ」など、言っていることはわかるのですが、「水がどうしたの?」と聞き返すようにしています。最近兄からものを借りる時などは、「僕のこれ貸してあげるから、これ貸して。」と丁寧に話をしていました。

保護者の様々な関わりを読み、改めて「自分の子どもをよく育てたい」という気持ちをひしひしと感じた。今回、関わり方を保護者にいくつか紹介したことで、子どもに変化が見られたことも大きな成果である。

1991年11月組

平成15年11月21日
授業者 今野 節子
木 高橋 宏一

平成15年12月3日
2時問目・教室 宏一
授業者 高橋

1 活動名 いいところさがし

2 ねらい
うちの人や友達から自分のよさを認めてもらい、自分を見つめ直したり、自分のよさを更だ強固にしたりして自己肯定感を高めることができる。

1 主題名	内容項目	2 - (3)
ともだちとなかよくなろう		

[illegible]

とする心情を育てる。
3資料 けんか（日本標準）の前半を紙芝居にして活用する

流の
運動
距離
0.4

主な活動と予想される子どもの姿	留意点（一）
1 ウォーミングアップを行う ○「あいこじやんけん」をやりますしよう。 おうちの人や友達とじゃんけんして、3人 とあいこになった人勝ちししよう。 ○次は「誕生月合わせ」をやりますしよう。声 を出さなくても、同じ月に生まれた仲間をさが しませししよう。集まった仲間と握手しませ しよう。	・保護者にも一緒にやってみてもら うことで、緊張をほぐし、楽し しい雰囲気を作り上げる。
2 エグササイズを行う ○今日サは「いいところさがし」の活動をします。 友達の前座でいるところ、すごいと思う ところをカードに書いてあげませしよう。 ・子どもたちの子にも全員、時間があったら、 ほかの子どもの分も書く。 ・親も自分の子どものいいところを3枚書く。	・教師がモデリングをを行い、「 いいところ」を具体的に示 す。 ・ア頭座でいるところ （朝顔・運動、仕事など） イ性接・才能（内面） ウ表情 エ笑顔が素敵・かっこいいなど）
○書いたカードを一人一人読んであげませし しよう。その後、カードをプレゼントししよう。	・書き出せない子には、対象の 子どもの顔を描いている愛を くつかり知らせそこから選ませ、 書くようにする。覚えても ・読み上げることで、改めて ええなうれしさをさらに高め たい。 ・保護者がいない場合は、教師 が書いてほかの保護者に読ん でもらう。 ・書いたカードを賞状 に貼り付けてから感想を書か せる。 ・おうちの方からも話してもら い、よさを認め合うようにす る。
3 シェアリング（わかい合い）を行う。 ○友達やおうちの人に、いいところを褒美し てもらって、感じたことを書きませしよう。 いいところをたくさん書いてもらって、う れしかつたです。 ○とてもはすかしかったです。 ○感想をグループで褒美し合いますしよう。 ○とてもすきな賞状ができました。 ○みんなに見えにあげませしよう。 家族の人みんなに見えにあげませしよう。	

[illegible]